

図書館を活用したマイブックリスト作成プログラム

～読書による知的活動の増進事業～



代表者 : 鈴木 達也 (リハビリテーション学部)
連携機関 : 浜松市立都田図書館

はじめに

作業療法は「人は作業を通して健康や幸福になる」という基本理念と学術的根拠に基づいて行われる (日本作業療法士協会, 2018)。本事業では図書館の特徴である「読書」の作業に焦点を当て、図書館と地域連携事業を実施した。

参加者同士がそれぞれに思いのある本を共有することにより、関心の広がり、社会交流が期待できる。また学生との交流をすることで世代間の交流ができ、新たな刺激に繋がった。

結果、参加者の「読書」への作業参加や社会交流に変化が見られたため、地域活動の新たな展開として報告する。

実施方法

参加者は地域の回覧板、A図書館の掲示板、チラシで一般から公募した。実施日は2024年9月6日の10-12時。プログラム内容は作業と健康に関する講義、本探し、参加者の関心ある本のブックリストの作成、ブックリストの発表とした。

参加者3~4名に対して学生スタッフ2名が加わり、本の検索やブックリスト作成、発表時の傾聴を行った。

プログラム後はアンケートを実施。アンケートは参加者の年代、講座を知った方法、図書館の利用頻度、図書館カードの所有、1ヶ月の読書数、講座の満足度、自由記述式で印象に残ったことについて無記名で回答を得た。

考察

今回の事業では「読書」という特定の作業に焦点を当てた。

結果、「読書」の作業参加の維持・向上に繋がり、参加者の読書への関わり方や社会交流、他の活動についても影響が見られた。「読書」は一般的に一人で行う作業であるが、作業の知識を得て他者交流ができたことが影響したと考えられる。作業参加の「維持・向上」群は「低下」群に比べて健康関連QOLが全方位で良好である (今井, 2019)、作業の視点で特定の作業への参加を維持・向上することにより地域への健康増進活動に貢献できる可能性がある。

結果

表1. 参加者の年代

年代	人数
50代	1
60代	3
70代	3
80代以上	2

表2. 講座を知った方法 (複数回答)

方法	人数
地域の回覧板	3
図書館のポスター・チラシ	3
図書館のホームページ	2
X (旧Twitter)	2
知人・友人から	2
その他	1

表3. 図書館利用頻度

頻度	人数
月に数回来ている	3
久しぶりに来た	3
年に数回来ている	2
初めて来た	1

表4. 1ヶ月に読む本の数

冊数	人数
10冊以上	5
50冊以上	3
100冊以上	0

表5. 講座の満足度

満足度	人数
非常に良かった	5
良かった	4
普通・良くなかった	0

表6. 印象に残ったこと

内容	人数
人と交流できた	4
読書意欲が高まった	2
楽しい時間を過ごせた	1
本探し・リスト作成が良かった	1
知識を得られて良かった	1

【事業実施3ヶ月後の図書館の参加者への調査】
今回の企画に参加したことをきっかけに

- ・他の図書館のイベントや市の環境政策課の勉強会などに参加
 - ・本について語らう読書会の開催」を図書館に希望する
 - ・事業を通じて仲良くなった方とともに来館頻度が増加
 - ・図書館に来たことがなかった夫と来館するようになった
- など、参加者の中に図書館での読書の参加形態が変化した報告が得られていた。

NOTES

